

【経済成長の光と影】

バングラデシュで、なぜ縫製業？

【実践者】

氏 名	太田 祥子	学校名	私立駒場東邦中学校
担当教科等	地理	対象学年（人数）	2 年（1 クラス男子 40 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024 年 11 月（50 分）× 3 時間× 6 クラス		

実施概要

01 実践する教科・領域

世界地理（南アジア）

02 単元名と単元目標

単元名：南アジアの産業

単元目標：他者の立場から考える

関連する学習指導要領上の目標：問題解決能力、説明力、協調性

03 単元の評価規準

① 知識・技能	指定の資料をもとに考えられるか
② 思考・判断・表現	他者の立場や状況を理解して考えられるか
③ 主体的に学習に取り組む態度	問題解決について、自分の立場から発表できるか

04 単元設定の理由・単元の意義

海外に興味はあるが、日ごろのニュース程度しか知識はなく、途上国は「怖い・遅れている・日本が安全で居心地がよい」と思う生徒が多い。商品は「安ければよい」という見方しかできず、生産国の事情や安さの背景には考えが及ばない。

05 単元計画（全 3 時間）

	学習のねらい	学習活動
1	南アジアの地誌全般を学ぶ。特にバングラデシュについては、地形・人口構成・産業の現状とともに、気候変動による影響や貧困問題、政治概要について学ぶ。同時に、身近に感じてもらうために、食	バングラデシュを中心に、アジアの基礎的な知識を学ぶ。（地形、人口ボーナス、主要産業、言語や宗教など） 【研修との関連】 在日バングラデシュの方のお話や、東十条でのモスク建設やハラール店を通じて、東京からでも見られる南ア

	文化や現地の学校の様子なども紹介して、興味を促す。	ジヤやムスリムの生活習慣を紹介する。バングラデシュ以外の南アジアの宗教や文化も紹介し、南アジア内の多様性も伝える。
	資料・教材など 地理資料集（フォトグラフィア・とうほう出版）より：SDGs 紹介ページ・P156 貧困をなくそう（バングラの洪水）P164 ジェンダー平等（児童婚）、P179 つくる責任（アパレル産業）の写真など	
2	なぜ縫製産業が発達したのかについて、（生徒が答えとして既に想定している）人件費の安さ以外の要素（人口構造、外貨獲得、ジェンダー不平等）などの観点から複合的に考える。途上国での生産品が安価であることの問題点を、労働条件や安全基準や経済構造などの着眼点から思考させる。	身近な衣服を例に、ファストファッションの特徴を考えた上で、低価格の原因について考察する。 縫製ビル工場倒壊事故とアパレル産業の問題をグローバルな視点で考えるために、ドキュメンタリー「トゥルーコスト」を視聴（15分程度）し、事故の悲惨さや現地の下請け企業の厳しい現状を紹介する。事故を受けて、その後の縫製産業が衰退したのか、労働者の安全水準や賃金は向上したのかについて考えさせる。さらに、次回授業につなげるために、SDGsの目標内容について復習する。 【研修との関連】 縫製工場で、中学卒程度の女性の働き手が多い背景（学校教育の問題点、女性の社会進出の課題点など）について、具体的に補足説明する。
	資料・教材など 貿易統計、産業別のGDP、ラナプラザの事故写真や背景、映像資料「トゥルーコスト」	
3 本時	ある社会問題は、「特定の悪い人」がいるために起こるのではなく、背景には複雑な要因があり、異なる立場によって、「経済成長・豊かさ」を目指す目的や手段が異なる場合があることを、他者の立場に立って考えさせる。	各班での話し合い → 6つの班で発表 聞き手側はふりかえりシート記入 賛否そのものよりも、理由に関して、「かわいそう」などの感情ではなく、貿易や経済状況など配布資料から読み取った内容を基に、考察・発表させる。 6つの班の発表を聞いた後で、自らの振り返り（990円のTシャツを買うか否かの意見は変わったか？など）や日常生活との関連について、考えをまとめる。 【研修との関連】 ロールプレイの方法論の応用、バングラデシュの地域概要の情報（研修時に使用した資料より）
	資料・教材など バングラデシュ概要の資料プリント、ロールプレイの原稿など	

06 本時の展開（3時間目）

本時のねらい：ある社会問題は、「特定の悪い人」がいるために起こるのではなく、背景には複雑な要因があり、異なる立場によって、「経済成長・豊かさ」を目指す目的や手段が異なる場合があることを、他者の立場に立って考えさせる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (10分)	バングラデシュ概要の復習、ロールプレイの意図説明	「他者の立場に立つ」意義やSDGsの説明
展開 (30分)	6つの役割（政府の役人、下請け工場主、先進国のアパレル社長、ダッカ大学の学生、ダッカの少女、東京の大学生）の立場に立って、「賃金を上げて、安全基準を守るべきだ」という意見に、「賛成・反対か」を班で考えさせる。その際、SDGsの中で、どれを最も重視するかについても、決める。	選べない役割からの想像力の育成 貧困や社会問題を解決する難しさ
考察 (10分)	賛否そのものよりも、理由に関して、「かわいそう」などの感情ではなく、貿易や経済状況など配布資料から読み取った内容を基に、考察・発表させる。 同じ目標を目指すのでも、立場による手段の違いや対立が生じる場合があることの理解	

使用する資料・教材：バングラデシュ概要の資料プリント、ロールプレイの原稿など

07 板書計画

PPTを使用

08 評価規準に基づく本時の評価方法

発言回数の差はあったが、各班で話し合いが活発にできていた。時間が足りない中で、出た意見をまとめて発表する努力をしていた。他者の立場に立って考える難しさを実感できていた。

09 学校外との連携（※該当のある場合）

なし

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

「社長なら、利益を優先したい」「労働者なら、賃金をあげてほしい」「SDGsを目標にすると、自分のことだけを考えられないから、難しい」・・・など、消費者個人の立場からは、普段は思いつかない想像力を働かせていた。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

貧困問題や社会問題は「誰かが悪い」から起こるものではないことを、日常の消費者の立場を離れて、SDGsの視点から考えてもらいたかった。

12 苦労した点

バングラデシュ一般事情説明、ジェンダー問題、貧困と教育問題への説明が時間的に不足していた。特に女子中学生の就労状況については、想像させることが難しかった。

13 改善点

- ・事前に国情報への理解をより深める。学校教育と貧困との関係を理解させる。
- ・バングラデシュの今後の可能性について、紹介したかった。

14 成果が出た点

- ・自分の利益や都合だけではなく、貧困や環境問題など、地球全体の利益を考える視点が大切であることを伝えられた。

15 自由記述

本校生徒の課題（数字で考えがち、利他的な立場にたちにくい）などの課題が見えた。